

終着 安息の地 洗足池へ

海舟だより 第19号

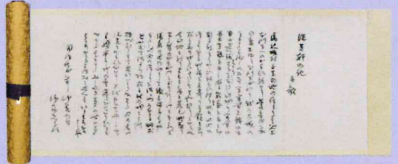
勝海舟と洗足池のゆかりを知っていますか? 晩年の海舟にとって洗足池は、思い入れのある場所でした。

海舟と洗足池との出会いは、遡ること慶応4(1868)年4月。新政府の本陣・池上本門寺での会談前に訪れました。海舟は、眼前に広がる青く透き通った池水を目の当たりにし、張り詰めていた気を和らげ、一時の安息を覚えます。この時の印象が晩年まで記憶に残り、洗足池畔の土地を購入しました。後に別荘「洗足軒」を構え、気心知れた仲間と度々訪れては、池や見頃の桜、紅葉などを愛で遊びました。明治32(1899)年1月に海舟がこの世を去ると、生前の希望から洗足池畔に埋葬され当地に眠ります。以降、この地では、親族や有志達による海舟の功績を後世まで伝える活動が行われるようになりました。

全4回にわたる海舟生誕200年記念特別展を締めくくる本展では、新出資料を含む13点の資料から、洗足池畔における晩年の海舟の足跡、海舟没後の親族らの思いや活動を紐解きます。

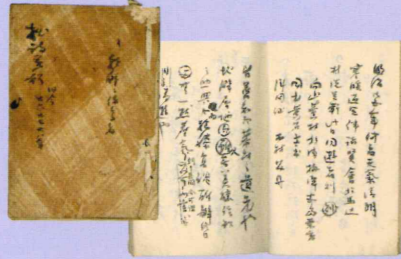
出会う

明治23(1890)年に洗足池畔の土地を購入した海舟は、翌年に洗足池との出会いを書き記しました。本資料はその複製です。新政府の本陣・池上本門寺へ訪れる道中、洗足池に立ち寄ったことを懐かしむように回想し、今後洗足池畔に構える別荘の構想などが記されています。



明治24年仲春「洗足軒之記并歌」
(レプリカ、原蔵は東京都江戸東京博物館)

遊ぶ



「拙詩并歌 旧今廿六廿七廿八年」
(海舟自筆)

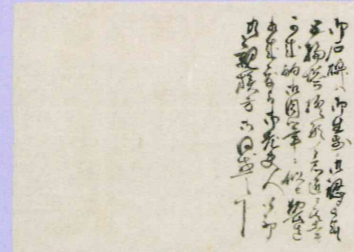
海舟が明治26(1893)年～28年頃にかけて詠んだ詩歌がまとめられている冊子。

この期間中、海舟はしばしば旧友の津田仙や木村芥舟ら7人とともに馬込村の別荘洗足軒に訪れました。一日回遊しては、昔を懐かしみ談じた思い出などが自筆で記されています。

眠る

明治32(1899)年1月19日、海舟は赤坂氷川邸の自宅で病死しました。葬儀の後に埋葬されたのが、海舟が生前に購入した土地・洗足池畔です。

墓石は、海舟の妻・たみや親族らが話し合い、海舟が生前記した五輪塔図に似せて制作し、同年11月に建立されました。



「墓石設置の覚書」

本紙背面に掲出した筆文字は、展示する海舟直筆の資料から引用しました。
「天気晴朗春暖適宜 諸賢を伴い馬込村洗足軒に於て会す 明治廿五年仲夏 海舟散人」と書かれています。

Information

ギャラリートークを開催します!

本展の展示資料について、当館学芸員が解説します。記念館窓口、電話、FAX等でお申し込み下さい。

【日時】第1回:令和6年1月20日(土)
第2回:令和6年3月6日(水)
午後2時から約30分
【募集人数】各回10名程度(先着)

*ギャラリートーク参加には入館券が必要です。
*定員に達し次第、受付を終了します。

電話 6425-7608 FAX 6425-7610

■新ミュージアムグッズのご紹介 当館ミュージアムショップで好評発売中です!



生誕200年記念切手
(1800円)



ポストカード
「勝家の肖像画」
(100円)



クリアファイル(旧清明文庫)
(400円)



エピソード

終着

安息の地 洗足池へ

2023年12月1日(金)

～2024年3月10日(日)

大田区立 勝海舟記念館

Ota City Katsu Kaishu Memorial Museum

- 開館時間 午前10時～午後6時
※月曜(祝日の場合は翌日)を除く
11月27日(月)～11月30日(木)は展示替えのため、
12月29日(金)～1月3日(水)は年末年始のため休館
- 入館料 一般300円、小中学生100円(各種割引有り)
- 所在地 東京都大田区南千束2-3-1
- 電話 03-6425-7608
- ※最新の情報は、区ホームページをご覧ください。

